

蕨学園「落語を楽しむ」

第 28 回 鑑 賞 会

2018. 7. 25

講釈師と歩く歴史と文化の散歩ラリー

来年、真打昇進の女流講談師 宝井琴柑の案内による
『四谷怪談とお岩稲荷』

1. 行 程 J R 四ツ谷駅→法輪山・勝興寺→於岩稲荷田宮神社→お江戸日本橋亭（四ツ谷駅から勝興寺まで 800 m、勝興寺から於岩稲荷まで 400m くらいで、歩行距離は短いと思われます。）
2. 集 合 ①蕨駅ホーム一番東京寄りに 8:50（8:56 乗車）
 ②神田駅 6 番線ホーム東京寄りに 9:33（9:35 乗車）
 ③ J R 四ツ谷駅麴町口改札前に 9:45
3. 会 場 お江戸日本橋亭「お江戸寄席 7 月」
 開場 13:00、開演 13:30、終演 16:00 予定
4. 出 演 三遊亭游七（落語芸術協会 前座 小遊三孫弟子）
 （予定） 三遊亭楽大（円楽一門会 ニツ目 楽太郎に入門）
 宝井琴柑（講談協会 ニツ目）
 橘家竹蔵（落語協会 真打 月の家円鏡の弟弟子）
 はたのぼる（東京演芸協会 会長 吹奏楽漫談）
 昔昔亭桃太郎（落語芸術協会 真打）
5. 参加費 3,500 円（案内料・お弁当・お飲物・寄席鑑賞料）

※打ち上げは赤羽北改札東口「カフェ ランドスケープ」予定。

予約しますので、7 月 15 日（日）迄に出欠をお知らせください。

「東海道四谷怪談」

鶴屋南北の「東海道四谷怪談」は「忠臣蔵」のサブストーリーとして作られました。このため、当時は「忠臣蔵」と「四谷怪談」を同時進行させて2日かかりで上演していました。1日目は、まず「忠臣蔵」の大序から六段目までを演じ、その後を「四谷怪談」の三幕目「隠亡堀」までを演じます。2日目は、「忠臣蔵」の7段目からクライマックス直前までを演じ、次に「四谷怪談」の四・五幕目、復讐成就までを演じて、最後に「忠臣蔵」の討ち入りを演じていました。

あらすじ（復習）

第1幕（浅草境内～地獄宿～浅草田圃の場）

塩谷（浅野）家浪人の四谷左門の娘・お岩は同じ塩谷家浪人の民谷伊右衛門に嫁いでいました。もうすぐ子供が生まれるというのに、左門はお岩を実家に連れ戻してしまいます。それは伊右衛門が、塩谷家が改易になる前、公金に手を付けていたことを知ったからでした。伊右衛門はこの露見を恐れ、左門を密かに殺してしまいます。

一方、お岩の妹・お袖（養女）も同じく塩谷家浪人佐藤与茂七に嫁していましたが、夫と離れ離れになり直助という男が彼女にしつこく言い寄っていました。そして直助はなかなかお袖が言うことを聞かないので、夫の与茂七を殺してしまいます（実は人違い）。

伊右衛門はお岩に父親の仇を取ってやると言いくるめ復縁し、直助もお袖に夫の仇を取ってやるからと言って一緒になりました。

第2幕（伊右衛門浪宅の場）

お岩は子供を出産しましたが、産後のひだちが悪く、そんなお岩を伊右衛門は次第にうとましく思うようになりました。そんな時に隣の高師直（吉良上野介）の家臣伊藤喜兵衛が伊右衛門に孫娘のお梅を嫁にして欲しいと言って来ました。伊右衛門は高家の家臣なら仕官

の口添えも期待できると思い、その話に乗り、お岩を不貞者として離縁するために、按摩の宅悦に金をやってお岩を犯すよう命じます。

ところが一方の伊藤喜兵衛の方もお岩を亡き者にしようとして、お岩に血の道の薬と偽って毒薬を届けていたのです。そうとは知らずに薬を飲んだお岩は宅悦の目の前で髪をすくと抜け落ちてしまい（「髪梳き」と言って前半のクライマックス）、顔も崩れていきます。



驚いた宅悦はもうお岩を手込めにするどころではなくなり、あっさり伊右衛門の悪だくみを白状してしまいます。怒ったお岩はその宅悦ともみあう内、宅悦の刀が刺さり死んでしまいました。

一方、伊右衛門たちは民谷家秘伝の薬を盗もうとした下男の小仏小平を折檻して殺してしまい、結局小平の死体とお岩の死体を戸板の表裏にくくって川に流してしまいました。

そしてこれで邪魔者はいなくなったとばかり、伊右衛門とお梅は祝言をあげますが、そのお梅の顔が伊右衛門にはお岩の顔に変わったように見え、喜兵衛の顔は小平の顔に変わったように見えてしまい、恐怖に踊らされた伊右衛門は二人を斬り殺してしまいます。

第3幕（砂村隠亡堀の場）

伊右衛門が川で釣りをされていて、直助と再会します。直助が川で櫛を拾い持ち帰りますが、それは実はお岩の持っていた櫛でした。この後、ここへ伊藤の娘、お弓が現れますが、伊右衛門は父と娘の仇。そのお弓を伊右衛門は殺してしまいます。

そこへ川上から見覚えのある戸板が流れて来ました。引き上げてみるとお岩の遺体。その遺体が口を開いて怨みの言葉を言います。怖くなって裏返すと小平の遺体。その遺体も口を開いてまた怨みの言葉。（「戸板返し」と言い最大の見せ場）

第4幕（深川三角屋敷の場）

お袖はやむなく直助と夫婦になっていましたが、その直助が持ち帰ってきた櫛は姉・お岩のものでした。そして彼女は宅悦から姉の死を知らされます。驚いていたお袖のもとに、更に死んだと思っていた夫与茂七が現れお袖は混乱します。

そして更に、直助が実はお袖の実の兄であったことが判明し、お袖は自分を恥じて直助に斬られるようにし、直助もさすがのことにショックを覚えて自害してしまいます。

第5幕（螢狩り・蛇山庵室の場）

伊右衛門は七夕の宵迷い込んだ家で美人の女主人にもてなされますが、その女主人の顔はいつしかお岩の顔になっていました。さらに庭のかぼちゃもみんなお岩の顔で、提灯の中から更にお岩が出現します。（「提灯抜け」）

伊右衛門は亡霊におびえて百万遍の念仏に行きますが、効果はなく度重なるお岩の出現に次第に追いつめられていきます。そして最後、佐藤与茂七に、義父と義姉の仇として討たれてしまうのです。

※お岩さんの祟り？

「四谷怪談」を上演したり、本を書いたりすると祟るという話が蔓延しています。そのため芝居で上演したり映画を撮る時は、必ずみんなでお岩稲荷にお参りに行くということになっているようです。お参りをしなかったために祟りがあつた、という話が多数あります。

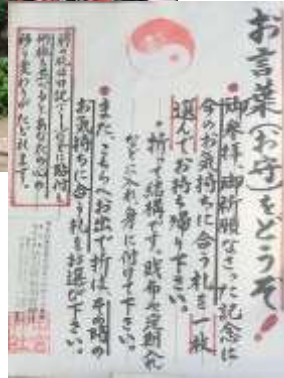
於岩稲荷を
お参りしましょ！



残念ながら散歩ラリーは猛暑で中止、でも行きました。



於岩稲荷田宮神社
お言葉（お守り）を
いただきました。



道路を挟んだ反対側の
陽運寺にもお岩稲荷があり
お参り休憩。

